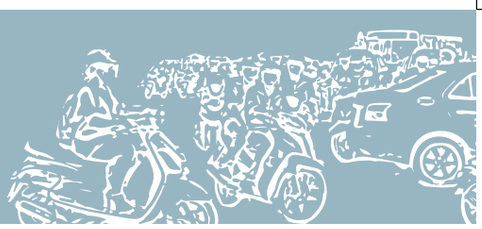
砂名の ベトナムに乾杯



第8回　アフターコロナ、この三か月を振り返って

ソフトロックダウン解除後、弊店にご来店くださるお客様には製造業の方も多く、他の工場が閉鎖になった、受注が減った、生産する商品が変わったなど、変更を余儀なくされた工場、フィジカルディスタンス、リモートワークなど、働き方改革を余儀なくされた工場もある一方で、日頃と変わらぬ通常業務だったという工場、コロナ景気で今までにない忙しさだという工場もあるようだ。

一方、私たち飲食店をはじめとするサービス業はもれなく、突然発令される規制や命令に右往左往させられただけでなく、多大な損失、売上の大幅減少に見舞われた。

弊店では前々から「できれば良いな」と考えていたデリバリーを開始。4月は何とか売上4割減に抑えることができた。むしろ「できれば良いな」程度のモチベーションでは、日々のルーチンに流され、できるものもできない。コロナで「何とかせねば！」と火が付いたからこそ出来たと言えよう。同時進行で進めていた事業計画や、コロナがきっかけで突然生まれた新しい仕事も、この「外出自粛・営業停止」という機会と「自由になる時間」があってこそだったと思う。

他の飲食店でも一斉にデリバリーが始まり、瞬く間にデリバリーシステムが構築された。元々あったベトナムのデリバリーシステム＆キャッシュレスに比べると、つけ刃的ではあったが、日本人社会の間で確実に浸透していった。

デリバリーさせていただいた、COVIT-19の影響で全館封鎖されたタワーマンションのようす。

最初の頃は私自身が配達にお伺いし、差し入れもさせていただいた。どのマンションやレジデンスでも、ゲートから奥に入れず、外でセキュリティーの人に荷物を預けるなど厳戒態勢だった。

SNSでは飲食業界のみならず、サービスが提供できない美容・理容関係者など、さまざまな声が発信された。何とか支え合えないかと、日本人街では「＃仲間の店でごはんを食べよう」キャンペーンに始まり、デリバリーやテイクアウェイを率先する動きがあった。私も、家で閉じこもっていると鬱々としてくるので、花の仕事がなくなったという華道家の方にフラワーアレンジメントを注文した。

そんな22日間だったが、ある意味、こんなに長い期間、自分だけの時間を過ごすことはまたとなかった。読書したり、オンラインで映画を観たりエクササイズしたり、英語の勉強に励んだり、10年ぶりとなる東京の友人とオンライン飲み会をした。そして自分の生き方や人とのつながりの大切さについて考えるなど、自分を見つめ直す良い機会ともなった。

ようやく営業再開となった4月23日。観光客も出張者もなく、日本人自体が帰国して減ったということもあるが、22日間の外出規制やリモートワークは、人々の生活習慣や考え方までも変えてしまったようだ。客足はなかなか戻らなかった。ようやく国内線が飛ぶようになってからは、ハノイからのお客様もご来店くださったり、これまで以上に常連客様はじめ、皆様の温かい応援が心に沁みる二か月間だった。新メニューも加わり、前にもまして楽しい空間づくりをめざして毎日営業している。

この原稿が記事になる頃には、また少し世の中は変わっているかも知れないが、ニューノーマルへの一歩を、私たちは確かに歩み出したように感じる。

月森砂名（つきもりさな）

奈良県出身。同志社大学文学部卒業。2015年よりホーチミン市にて、日本酒の普及を目的に、ベトナムで初の日本酒専門店、角打ち【日本酒で乾杯！】を立ち上げる。東京で舞台写真の撮影や舞台制作に従事する一方で、2001年より「月森砂名」名で、小説やフォトアートの作家活動を行う。2009年設立のNPO法人 Layer Boxにて、日本の伝統文化・伝統産業について、大学、高校、専門学校などと、プロモーションビデオ、3D、CGなどでコンテンツ制作を行い、世界に発信する事業に取り組む。

p34_砂名の□ トナムに乾杯_08.indd 34　2020/07/09 12:07